

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

| | | | | | |
|------|----|------|------|----|---|
| 学校番号 | 24 | 高知国際 | 高等学校 | 課程 | 全 |
|------|----|------|------|----|---|

| | | | |
|-------------|---|------------|---|
| 高知県の教育の基本理念 | (1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人 | スケール・ミッション | スケールメリットを生かして多様な教育課程や部活動の充実を図り、特色ある拠点校として、各分野で活躍する人材を育成する。 |
| | | | 探究型学習やキャリア教育を通してグローバルな視野を養い、海外大学を含めた生徒の進路実現を図り、地域や国際社会で活躍する人材を育成する。 |
| スクール・ポリシー | 【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○将来グローバルな視野をもって活躍したいと考えている生徒を求めています。 ○様々なことに興味や関心を持ち、深く知りたいと思っている生徒を求めています。 ○思いやりをもって行動し、公共につくす気持ちが大切だと考えている生徒を求めています。 ○地域を大切にし、人々の役に立ちたいと考えている生徒を求めています。 | | 【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○生徒の希望する多様な進路を実現するため、理系・文系に偏ることなく基礎的な知識・技能を身に付けたうえで、自身の進路希望に応じた科目が選択できるように教育課程を編成します。 1 データサイエンスの基礎を身に付け、根拠をもとに考察ができるよう取り組みます。 2 総合的な探究の時間を軸にした、学年縦割りゼミの講座設定を行います。 |
| | 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○グローバル社会で求められる高い志、資質・能力を育てます。 1 自ら学び、考える力を身に付け、生涯にわたって学び続ける態度を養います。 2 多様な価値観を尊重する精神をもち、他者とともに生きる態度を養います。 3 豊かな創造性を持ち、未来を切り開く、自主・自立の精神を養います。 | | |

| 学校関係者評価 | |
|--|----------|
| 【学力の向上】 | 評価 【 B 】 |
| スーパー・サイエンス・ハイスクール(SSH)の取組は、今年度始まったばかりであり、すぐにはその効果はわからないものの、総合的な探究の時間における縦割りゼミの活動などをはじめとした生徒たちの活躍から、今後がとても楽しみである。 | |
| 【社会性の育成】 | 評価 【 B 】 |
| SA(ボランティア)活動の広がりや、探究活動等における生徒同士のつながりや互いを励ます姿勢に成果が表れている。今後も、自己主張が強い文化(米国的な文化)に傾きすぎることなく、本来の謙虚さや陰の努力も評価していただきたい。 | |
| 【チーム学校】 | 評価 【 B 】 |
| IB教育がしっかりと完成している。学校評価アンケートでの教員満足度(88%)、生徒満足度(89%)、保護者満足度(93%)から、学校文化が形成されていることが数値的にも現れている。 | |

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

| | 育成を目指す資質・能力【P】 | 現状と目標(評価指標) | 具体的な取組内容【D】 | 中間評価【C】 | 中間評価後の取組内容【P・D】 | 年度末評価【C】 | 見直しのポイント【A】 | |
|------|----------------|--|---|--|--|--|--|--|
| 重点項目 | 学力的向上 | ★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) | ○C層以上の生徒の増加 ・1年:R6(98.1%)→目標(100%) ・2年:R6(96.2%)→目標(100%) ○平日授業外学習時間1時間以上 ・1年:37.9%2年:38.5%3年:65.7% →目標:1・2年:50%3年:80% ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・1年:92.4%2年:89.3%3年:91.2% →目標:全学年平均93.5% | ・すべての授業において「めあて・思発表・振り返り」を徹底する。 ・授業外で取り組む課題を出す。 ・ICTを有効活用し、授業時間内の思考の時間を多くする。 ・スーパー・サイエンス・ハイスクールSSHの実践を通して、生徒の哲学思考(主観的思考)と科学的アプローチ(客観的思考)を養い、文理融合のスキルを活用した探究活動に進化させる取組を推進する。 | B ○C層以上の生徒の増加 ・1年:(94.1%)【スタサポ】→(97.2%)【7月総合学力テスト】 ・2年:(95.9%)【スタサポ】→(98.9%)【7月総合学力テスト】 ○平日授業以外学習1時間以上(県平均) ・1年:43.0%(30.8%)2年:39.9%(25.3%)3年:74.1%(40.1%) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・1年90.8%、2年90.1%、3年93.7%(R7.1回目) ○模試分析会(4.3)、スタサポ報告会(4.24)、進路指導研修会(6.3)、河合塾PROG-H(課題発見・解決能力テスト)報告会実施(7.24)、合同教科会(4.1)、合同教科研修会(4.22)(6.24)(7.17)(9.25)、In school Work Shop(8.18) | ・「0から1を創造できるグローバル・イノベーション・リーダーの育成～当たり前を疑い、なぜを探究する力を育成する～」を研究主題として、授業研究を継続し、授業研究会を実施 ・模試分析会の分析をもとに検討した教科ごとの具体的な対策の実施 | B ○C層以上の生徒の増加 ・1年:(97.0%)【11月総合学力テスト】(97.8%)【1月総合学力テスト】 ・2年:(98.4%)【11月総合学力テスト】(98.4%)【1月総合学力テスト】 ○平日授業以外学習1時間以上 ・1年:35.9%2年:55.6%3年:88.3% ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・1年89.8%2年90.4%3年93.2% ○公開授業研究会(12.5)、模試分析会(1.7)進路検討会(1.24)、合同教科研修会(3.12) | ・引き続き授業研究を継続し、生徒一人ひとりが学ぶ意味を理解したうえで主体的に学習することができるよう授業実践につなげる。 ・SSHの実践を通じ、国際高校独自の文理融合のあり方を探究していく。 |
| | 社会性の育成 | ★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む) | ○「物事に取り組む際には、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」 ・1年:83.7%2年:87.3%3年:88.3% →目標:1年:85%2.3年:90% ○「将来の社会を持続可能なものとするために、今後、環境や社会の問題を意識した行動に取り組んでいきたいと思う」 ・1年:87.0%2年80.1%3年84.3% →目標:全学年平均85% | 学校全体としての3年間のキャリア教育プログラムの進める。 ・進路希望調査・適性検査 ・科目選択説明会 ・進路講演会・文化講演会 ・国際シンポジウム ・探究成果発表会 | B ○「物事に取り組む際には、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」 ・1年83.6%2年81.8%3年89.4% ○「将来の社会を持続可能なものとするために、今後、環境や社会の問題を意識した行動に取り組んでいきたいと思う」 ・1年86.0%2年86.2%3年84.3% | ・学年縦割りゼミでの探究活動を通じて、探究スキルや協働スキルを向上させる ・「ものづくり総合技術展」を利用した広く将来を考えるキャリア教育 ・探究成果発表会 ・錬歩会 | B ○「物事に取り組む際には、目標や具体的な手順を考え、その達成のために努力できる」 ・1年84.5%2年85.2%3年90.3% ○「将来の社会を持続可能なものとするために、今後、環境や社会の問題を意識した行動に取り組んでいきたいと思う」 ・1年83.7%2年85.6%3年85.5% | ・学年縦割りゼミの探究活動とSA(ボランティア活動)や修学旅行の大学訪問とを関連させ効率化を図る。 |
| 取組項目 | 地域協働学習 | 【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携 | ○「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある」 ・1年:65.7%2年:67.4%3年68.6% →目標:全学年平均75% ○「高校入学以降、地域や社会をよりよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」 ・1年:22.4%2年:69.5%3年:83.8% →目標:全学年平均70% | 国際バカロレアの教育活動の一つでもあるSA(Service as Action)を学校全体で進める。 ・生徒の自主的活動の推進と支援 ・地域と連携した植栽活動 ・県警と連携した交通安全運動 | B ○「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある」 ・1年71.8%2年65.2%3年71.3% ○「高校入学以降、地域や社会をよりよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」 ・1年32.0%2年71.5%3年81.2% | ・SA(Service as Action)を学校全体で進める。 ・生徒の自主的活動の推進と支援 | A ○「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えることがある」 ・1年57.9%2年68.8%3年73.4% 1年の数値低下は、意識向上に伴い自己評価が厳しくなったためである ○「高校入学以降、地域や社会をよりよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」 ・1年66.9%2年78.0%3年81.1% | ・各学年団を中心として具体的な目標を定め生徒に周知したことが効果につながっている。引き続き学校全体として進めていく。 |
| | 教科横断的教育 | 【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成 | ○「学校の授業では、学習活動や学習状況を自ら振り返る場面が設定されている」 ・1年:97.1%2年:96.0%3年:93.5% →目標:全学年平均96% ○「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」 ・1年:50.9%2年:67.5%3年:80.7% →目標:全学年平均70% | 「総合的な探究の時間」を核として深い学びを進め、キャリア教育へと繋げる GlobalCitizenshipプロジェクト I【自律】→II【挑戦】→III【実現】 ・中学校3年から高校3年までの縦割りゼミの実施 ・修学旅行と連動する大学訪問・企業訪問 | A ○「学校の授業では、学習活動や学習状況を自ら振り返る場面が設定されている」 ・1年97.5%2年96.8%3年94.9% ○「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」 ・1年62.7%2年74.7%3年84.0% | ・生徒とユニットプランナー、ルーブリックを共有、確認した後、単元の指導と評価を実施する。 ・成果物の指導(形成的評価)前、指導後と比較し、指導(形成的評価)の成果について評価する。 ・修学旅行 | A ○「学校の授業では、学習活動や学習状況を自ら振り返る場面が設定されている」 ・1年93.5%2年96.4%3年93.5% ○「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」 ・1年69.8%2年80.8%3年83.4% | ・総合的な探究の時間のプログラム、ルーブリック等について、見直し、検討を進めていく。 |

| | 取組のねらい【P】 | 現状と目標(評価指標) | 具体的な取組内容【D】 | 中間評価【C】 | 中間評価後の取組内容【P・D】 | 年度末評価【C】 | 見直しのポイント【A】 | |
|-------|-----------|---|--|---|---|---|--|--|
| チーム学校 | 学校の振興 | ★学校の魅力化・特色化 ○進学拠点校としての実績 ○SSH事業を活用し、0から1を創造できるグローバル・イノベーション・リーダーの育成 | ○魅力化・特色化の具体的な目標(指標) ・国公立大学及び難関私立大学進学者120名以上、海外大学5名程度 ・CEFR B1レベル以上 50% (卒業時) ・各種コンテスト等受賞 ・SA活動高1、高2全員参加 ○学校運営協議会等の実施回数 2回開催 | 学校全体としての3年間のキャリア教育プログラムの構築及び改善 ・教科会を充実させ、自主学習へと向かわせる授業展開の検討と実施 ・授業研究会等の継続的実施による授業改善 ・進路情報部を中心とした模試分析会 ・TOEFL Junior等の活用・SSH取組 | B ○国公立大学進学希望者(9月未現在) 1年170名(66.4%)2年183名(66.8%)3年173名(65.8%) ○CEFR(9月現在) A2:1年114人(45%)2年256人(93%)3年239人(91%) B1以上:1年21人(8%)2年76人(28%)3年94人(36%) ○学校運営協議会等1回(6月26日実施) | ・進路希望に応じた個別の進路相談、サポート ・目標意識の喚起と効果的な学習方法の指導改善の実施 | A ・国公立大学及び難関私立大学合格者(3月10日現在)国公立大学合格113名 難関私立大学7名、海外大学2名 ・CEFR B1レベル以上 普通科28%、グローバル科61% ・WWL全国高校生フォーラム奨励賞など ・SA活動高1、高2全員参加 ・学校運営協議会等2回(6月26日、2月5日) | ・教科会の充実 ・授業研究会の継続的実施 |
| | 不祥事防止 | ★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応 | ○倫理観堅持のための具体的な目標(指標) ・不祥事根絶のための校内ルール周知徹底 ・不注事案発生件数 0件 ○校内研修の実施回数【3回】 ○不祥事防止委員会の実施回数【10回】 | ・不注意によるミスを防ぐため、ダブルチェック体制の励行 ・より良い職場環境を作るため、職員間でも生徒に対してもRespect each otherの徹底 | B ○ヒヤリハット事案の共有 ○不祥事防止のための研修【5回】 ○不祥事防止委員会【4回】 | ・整理整頓 ・複数確認 ・文書類の総数確認 ・Respect each otherの徹底 | B ○ヒヤリハット事案の共有 ○不祥事防止のための研修【13回】 ○不祥事防止委員会【7回】 | ・整理整頓 ・複数確認 ・成績処理相互確認 ・文書類の総数確認 ・Respect each otherの徹底 |
| | 働き方改革 | ★長時間勤務の解消 業務の効率化を図り、心理的、体力的に余裕をもって働ける環境をつくる。 | 徐々に業務改善が行われているが、業務量の多さから一部、45時間/月を超えている者がいる。 ・部活動の練習の効率化を図り、部活動ガイドラインに基づく練習計画の作成 ・時間外業務45時間/月を超える者・10人以下 | ・ガイドラインに沿った部活動計画の作成 ・体力回復も考慮した練習計画と複数顧問での指導業務分担計画 ・会議の精選と時間短縮、資料の電子化によるペーパーレス化 ・ICTを利用したアンケート等の実施による集計作業の効率化 | B 時間外業務45時間以上 4月(26人)5月(15人)6月(17人) 7月(14人)8月(2人)9月(2人) | ・学習支援員・部活動指導員の効果的な活用 ・会計年度任用職員の効果的な活用 | B 時間外業務45時間以上 10月(23人)11月(8人) 12月(5人)1月(6人)2月(3人) | ・引き続き、ICTを有効活用した業務効率化をすすめる。 |